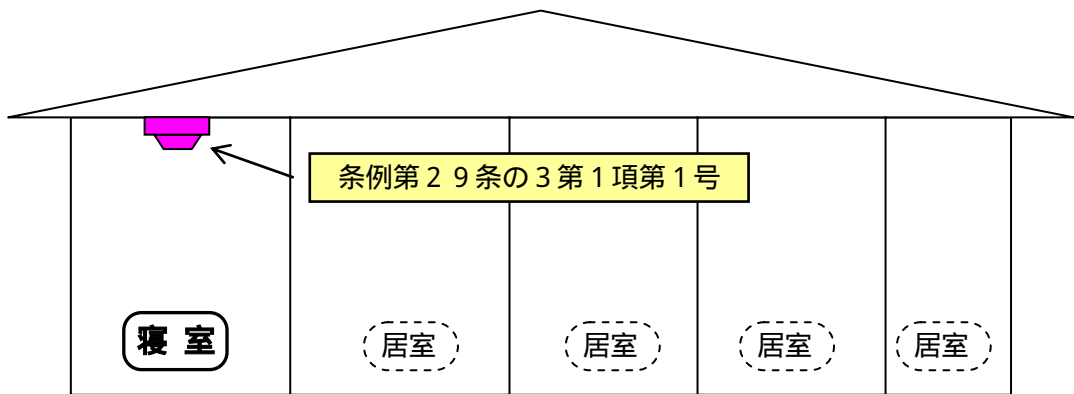
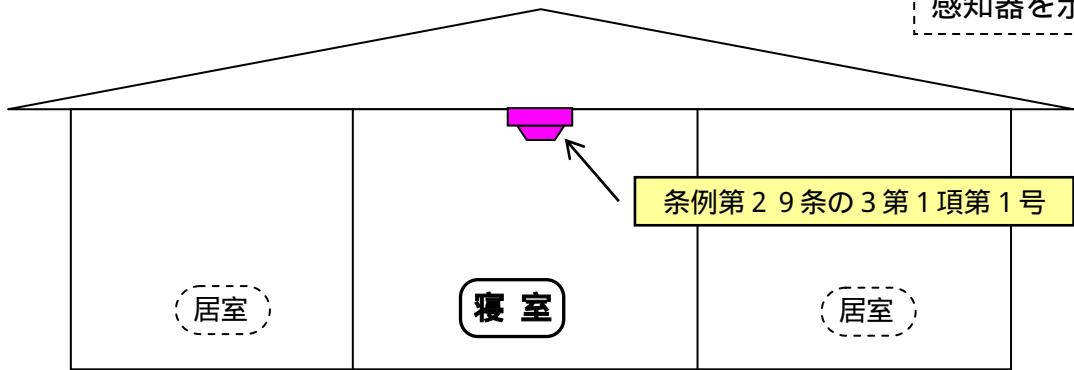
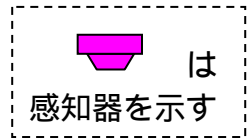


# 住宅用火災警報器の設置例

## 1 平屋住宅の設置例

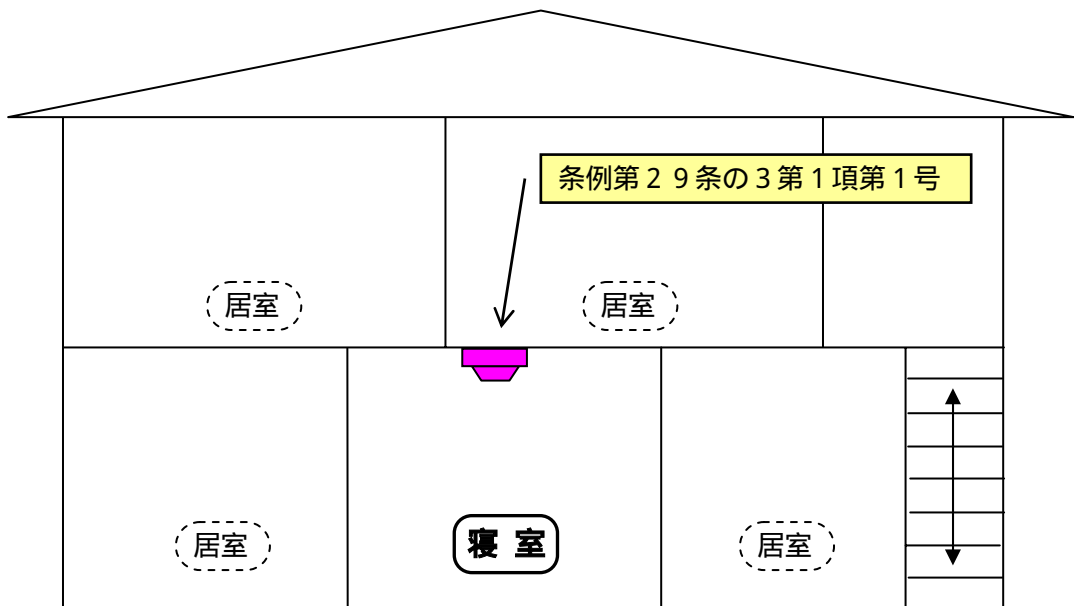
就寝(寝室)の用に供する居室が1室の場合



寝室が複数ある場合は寝室数分の設置が必要です

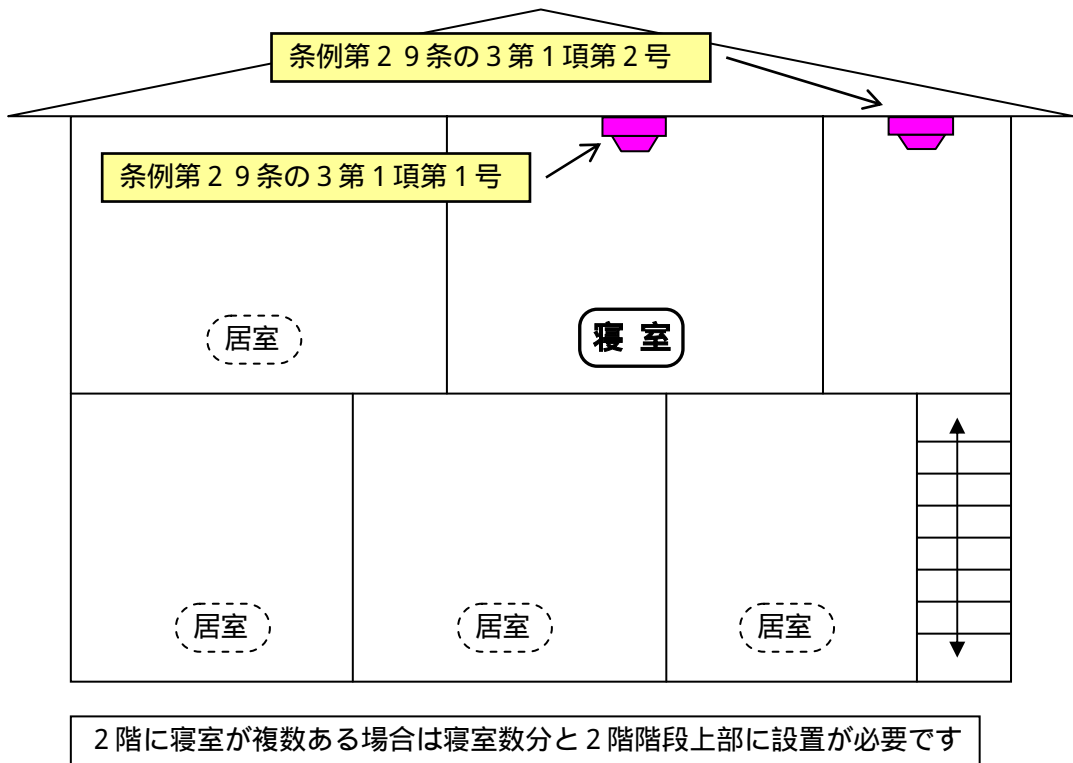
## 2 2階建住宅の設置例

就寝(寝室)の用に供する居室が1階に1室の場合

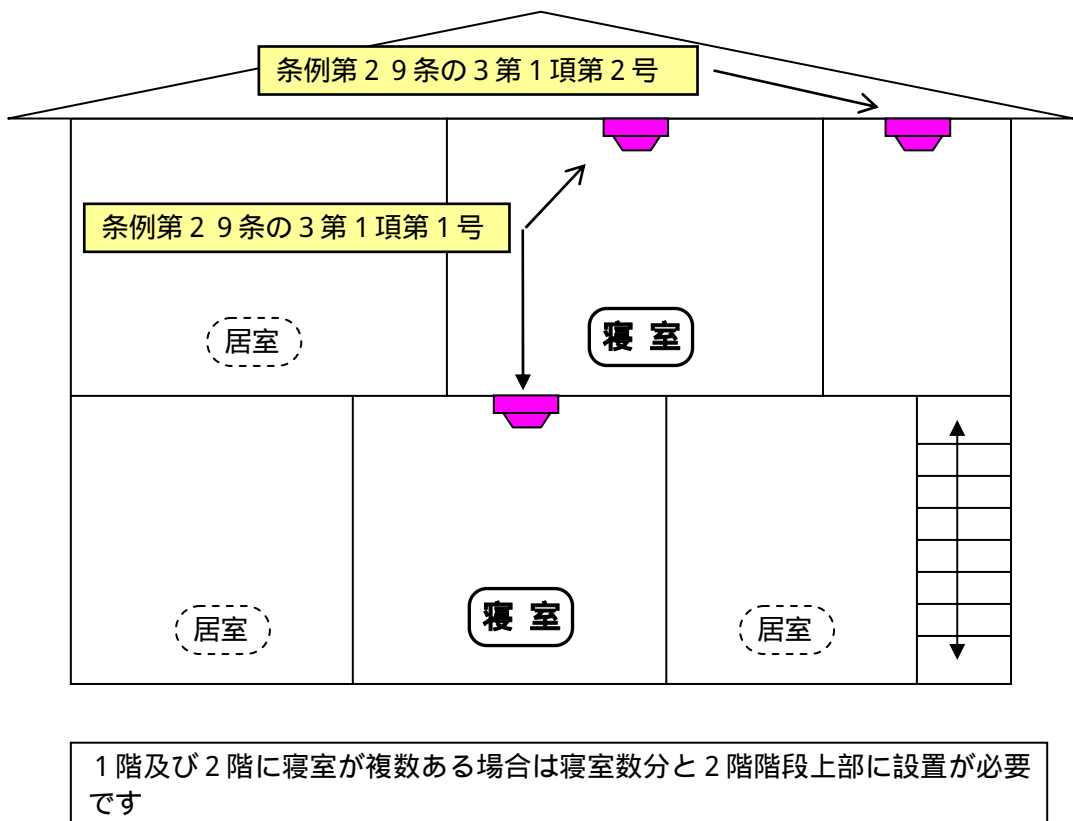


1階に寝室が複数ある場合は寝室数分の設置が必要です

就寝(寢室)の用に供する居室が2階に1室の場合

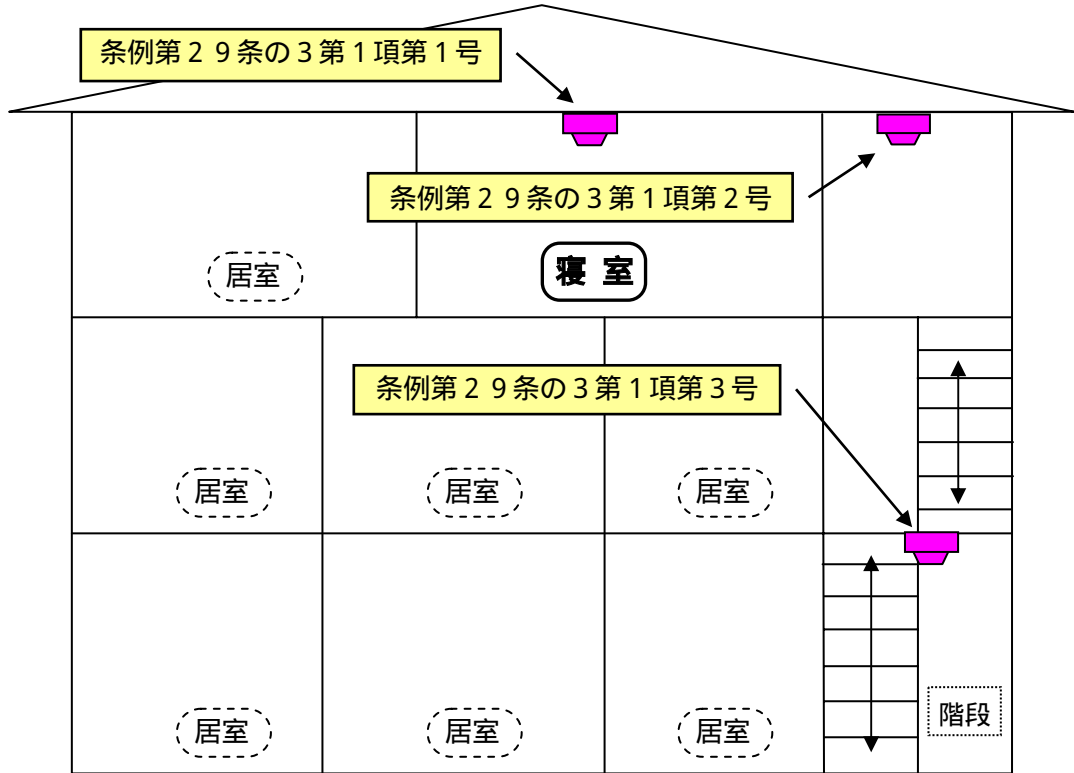


就寝(寢室)の用に供する部屋が1階、2階に各1室ある場合

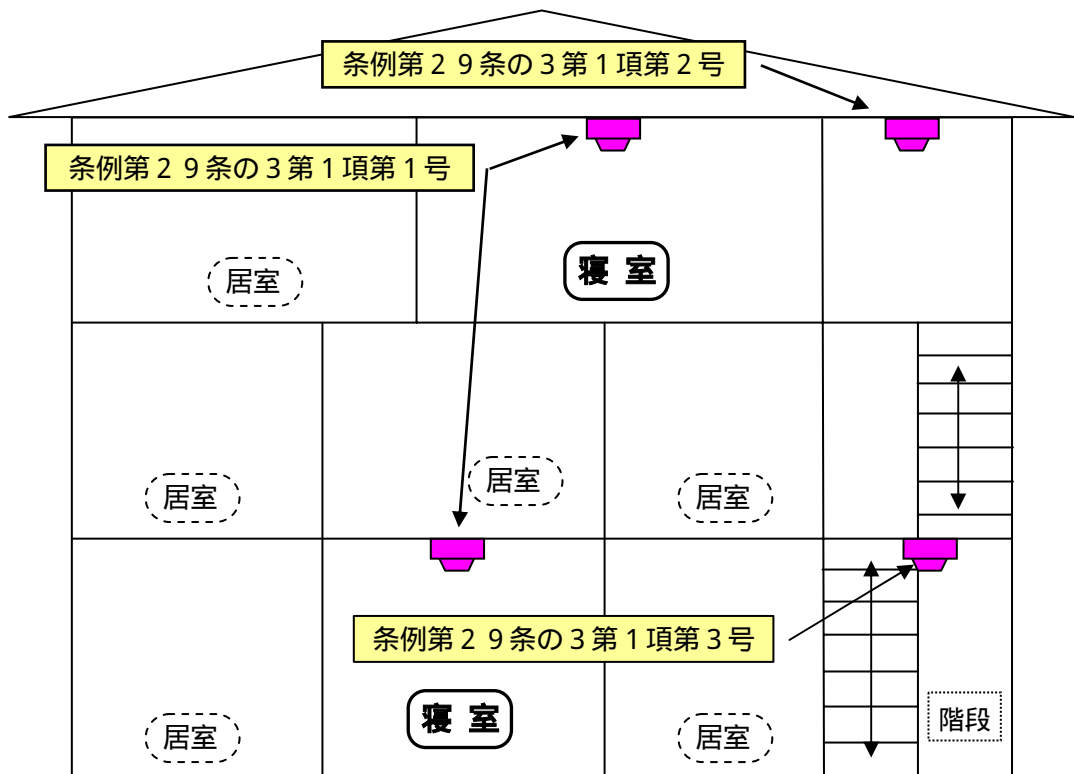


### 3 3階建住宅の設置例

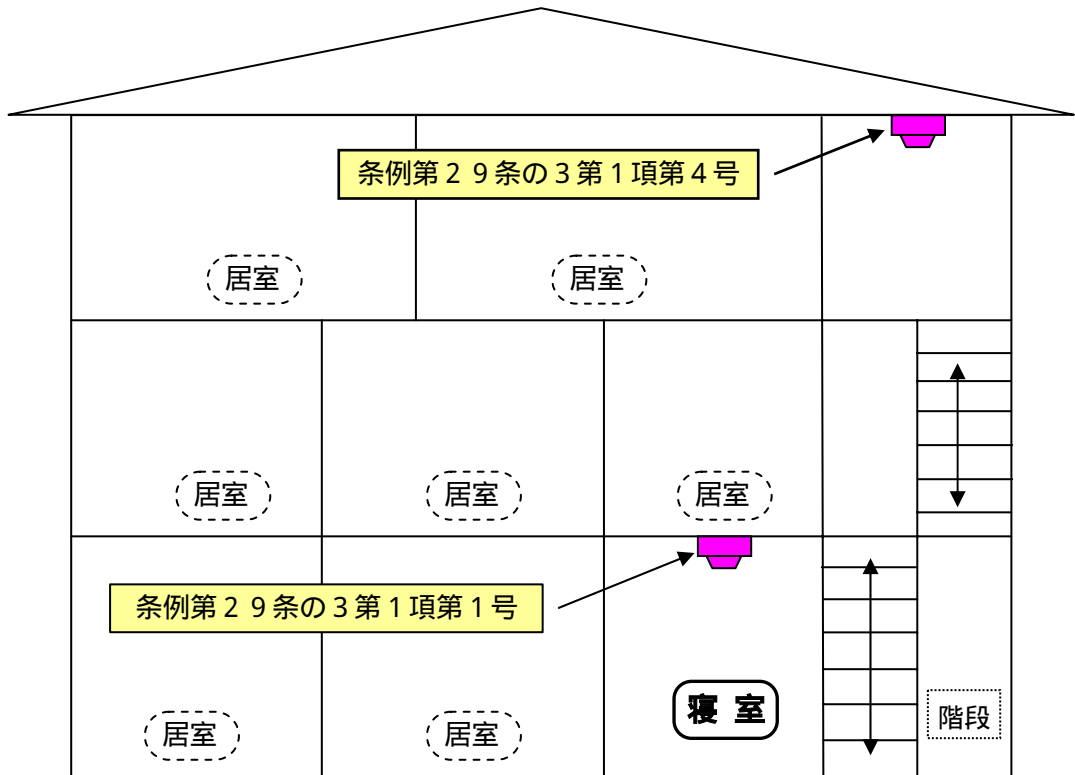
就寝(寢室)の用に供する居室が3階に1室の場合



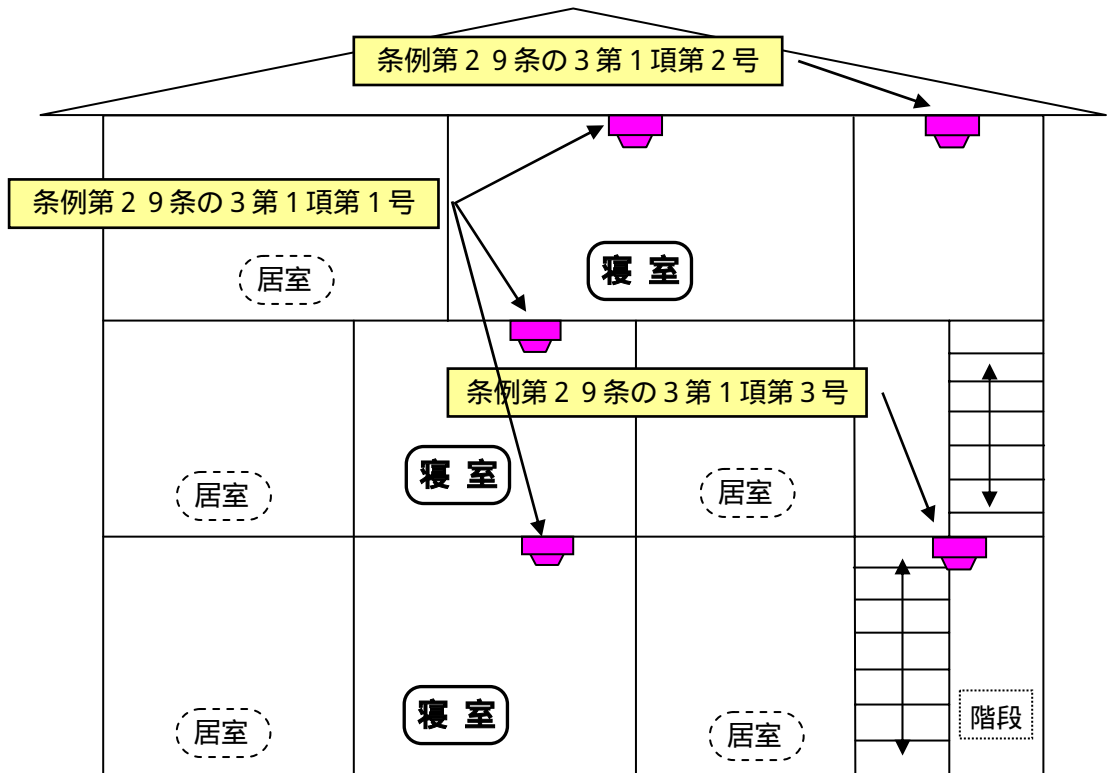
就寝(寢室)の用に供する居室が1階及び3階の場合



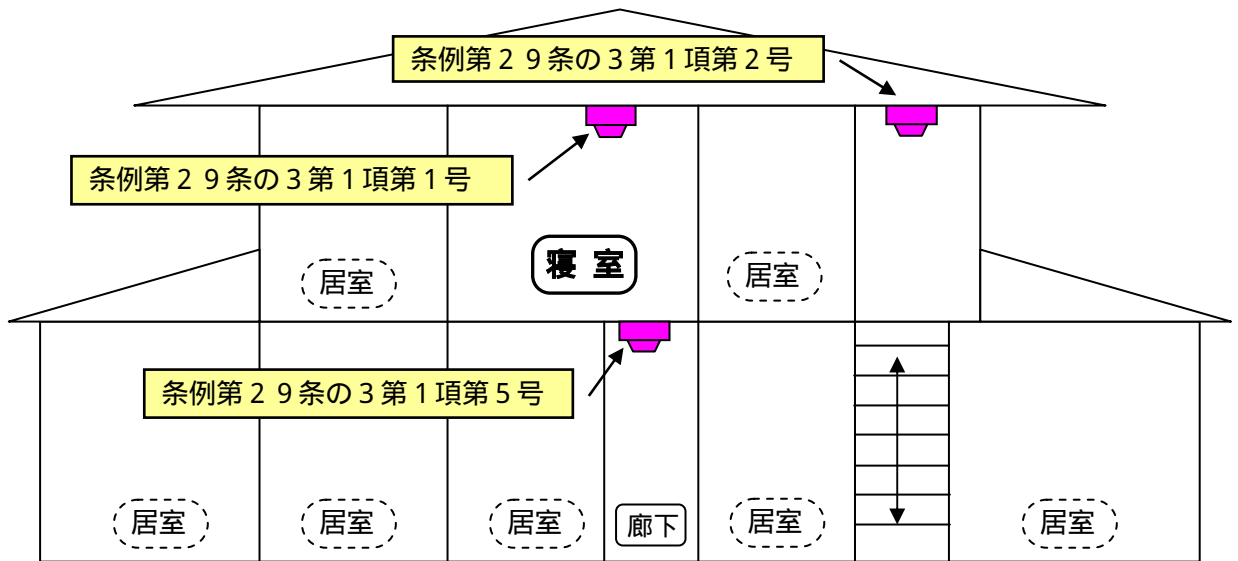
就寝(寢室)の用に供する居室が1階の場合



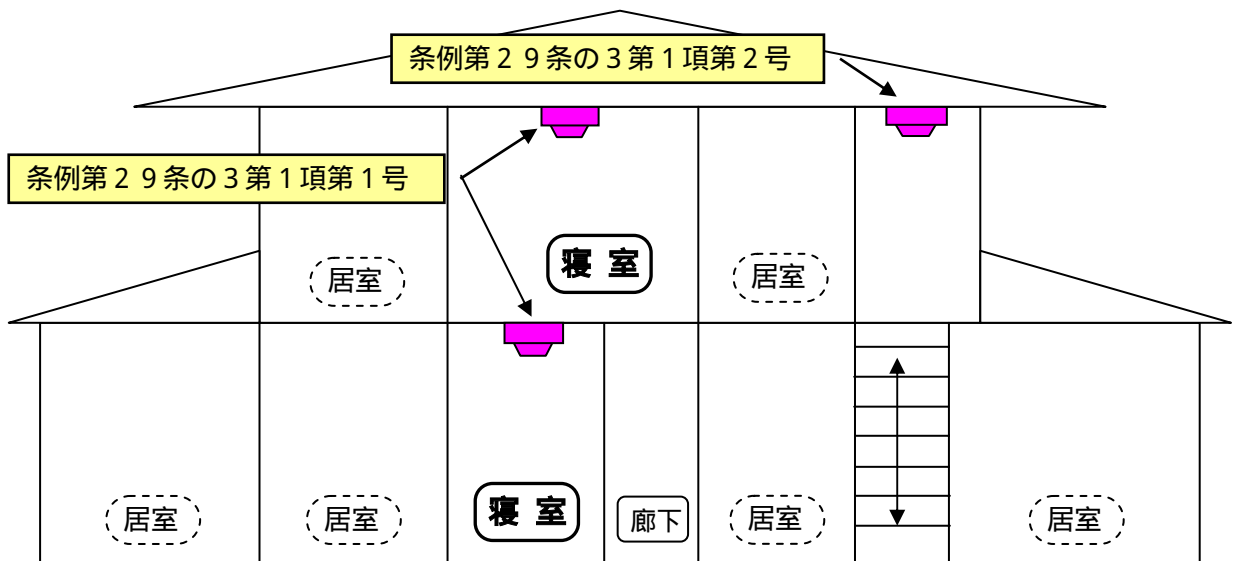
就寝(寢室)の用に供する部屋が1階2階及び3階の場合



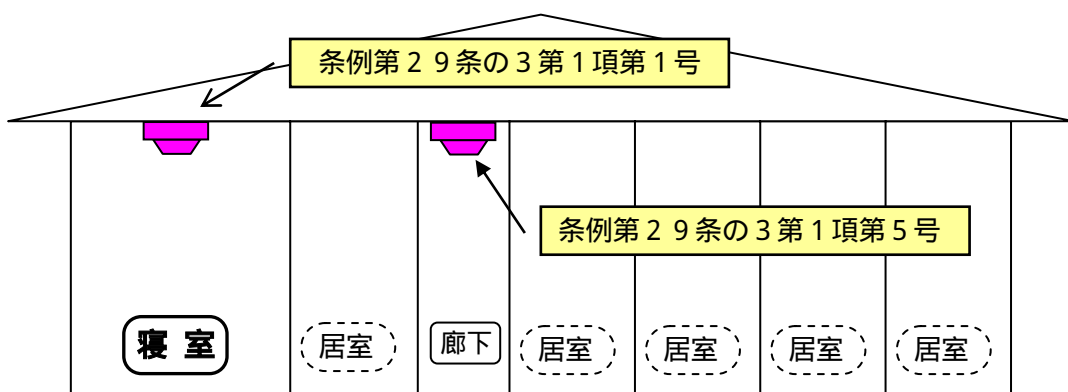
4 1の階に7㎡(4畳半)以上の居室が5以上存在する設置例  
就寝(寢室)の用に供する居室が2階に1室の場合



就寝(寢室)の用に供する居室が1階および2階に1室の場合



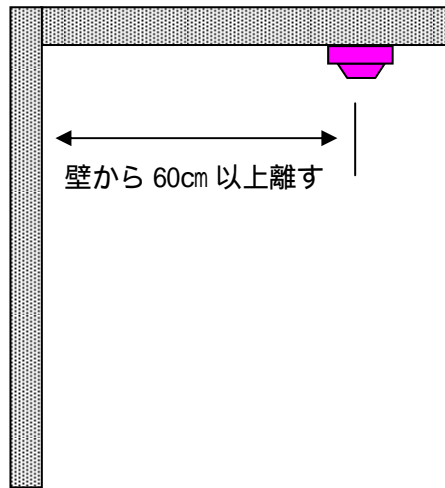
平屋住宅で就寝(寢室)の用に供する居室が1室の場合



## 設置位置

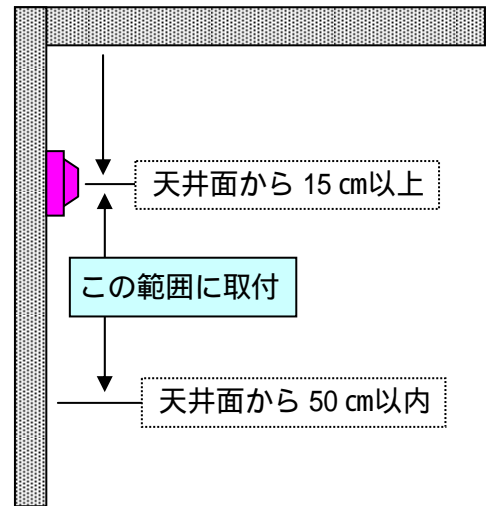
### 天井の場合

条例第23条の3第2項第1号



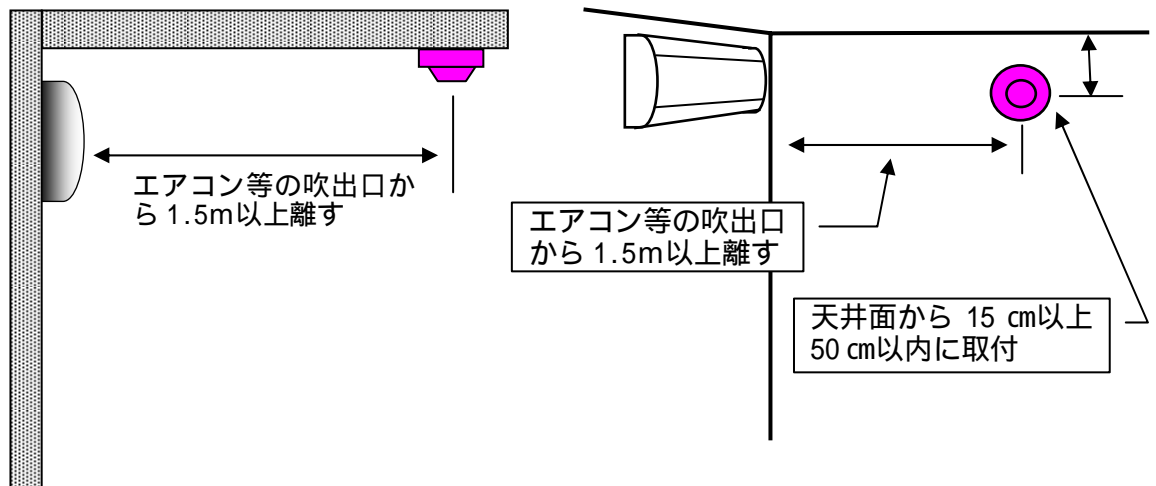
### 壁面の場合

条例第23条の3第2項第2号



### エアコン、換気口(扇)等の空気の吹き出し口からの距離

条例第23条の3第3項



## 火災予防条例

第29条の3 住宅用防災警報器は、次に掲げる住宅の部分（第2号から第5号までに掲げる住宅の部分にあっては、令別表第1(5)項口に掲げる防火対象物又は(16)項に掲げる防火対象物の住宅の用途に供される部分のうち、専ら居住の用に供されるべき住宅の部分以外の部分であって、廊下、階段、エレベーター、エレベーターホール、機械室、管理事務所その他入居者の共同の福祉のために必要な共用部分を除く。）に設けること。

- (1) 就寝の用に供する居室（建築基準法第2条第4号に規定する居室をいう。第4号及び第5号において同じ。）
- (2) 前号に掲げる住宅の部分が存する階（避難階（建築基準法施行令第13条の3第1号に規定する避難階をいう。以下この条において同じ。）を除く。）から直下階に通ずる階段（屋外に設けられたものを除く。以下この条において同じ。）の上端
- (3) 前2号に掲げるもののほか、第1号に掲げる住宅の部分が存する階（避難階から上方に数えた階数が2以上である階に限る。）から下方に数えた階数が2である階に直上階から通ずる階段の下端（当該階の上端に住宅用防災警報器が設置されている場合を除く。）
- (4) 第1号及び第2号に掲げるもののほか、第1号に掲げる住宅の部分が避難階のみに存する場合であって、居室が存する最上階（避難階から上方に数えた階数が2以上である階に限る。）から直下階に通ずる階段の上端
- (5) 前4号の規定により住宅用防災警報器が設置される階以外の階のうち、床面積が7平方メートル以上である居室が5以上存する階（この号において「当該階」という。）の次に掲げるいずれかの住宅の部分
  - ア 廊下
  - イ 廊下が存しない場合にあっては、当該階から直下階に通ずる階段の上端
  - ウ 廊下及び直下階が存しない場合にあっては、当該階の直上階から当該階に通ずる階段の下端

2 住宅用防災警報器は、天井又は壁の屋内に面する部分（天井のない場合にあっては、屋根又は壁の屋内に面する部分。この項において同じ。）の次のいずれかの位置に設けること。

- (1) 壁又ははりから0.6メートル以上離れた天井の屋内に面する部分
- (2) 天井から下方0.15メートル以上0.5メートル以内の位置にある壁の屋内に面する部分

3 住宅用防災警報器は、換気口等の空気吹出し口から、1.5メートル以上離れた位置に設けること。